

～【「私たちにできること」】～

既に学校のホームページではお知らせしております。9月4日(土)、八代市公民館(千丁町)において開催された第43回「少年の主張」熊本県大会で、3年1組の児玉和奏さんが入選を果たしました。県内各地より寄せられた応募総数1101人のうち、この大会に参加できた人数は12人。競争率に直すと9.2倍という難関、つまり東京大学の入試よりもはるかに高い難関を突破しての快挙です。児玉さんの作品を紹介します。

～「私たちにできること」～

みなさん、今世界中でたくさんの方が苦しい思いやつらい思いをしているのを知っていますか。私は世界中でいろいろな問題が起こっている中で、「差別」について考えてみました。

まず、差別とは何か。差別とは、特定の集団や属性に属する個人に対して、その属性を理由にして特別な扱いをする行為のことです。その差別が優遇か冷遇かはその人の立場によって変わってきます。これを知って、私は立場とかは関係ないと感じ、差別の存在自体に大きな違和感を持ちました。

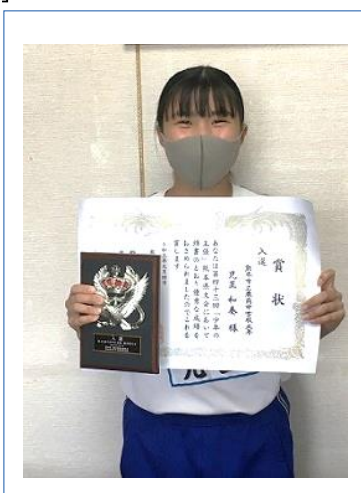
さらに調べてみると、差別には、「身分差別」「階級差別」「人種差別」「民族差別」など、たくさん種類が存在します。私はこの中で、「人種差別」に注目してみました。

私が「人種差別」に注目したきっかけは、あるニュースです。そのニュースとはミネソタ州で起きた射殺事件です。ミネソタ州で警察が職務質問後に逮捕しようとした黒人男性を射殺するという悲惨な事件です。また、同州ミネソタポリスで黒人男性が白人警官に首を膝で押さえつけられて死亡するという全く理解できない2つの事件が起きています。この2つの事件を機に、アメリカをはじめ世界各地で人種差別や警察暴力に抗議するデモが相次いで起きました。私はこのニュースを見たとき、とても胸が痛くなりました。今までにない悲しみと怒りが交錯したからです。

なぜ、黒人だからという理由で死亡させてしまったのでしょうか。私がおしこの黒人男性の家族だったら絶対に許せません。許すはずがありません。警官にどんな処分が科されたとしても男性の命に換わるものはないのです。二度と命はもどりません。私はこれが「人種差別」だと感じ、「人種差別をもちろんなくしたいけど、あらゆる差別をなくしたい」と強く思うようになりました。

では、差別をなくすために私自身ができること、そして私たちができることは何でしょうか。そこで、私は2つ考えました。

1つ目は、一人ひとりが差別への理解を深めることです。差別という言葉を知っていたとしても、何が差別で、差別によって人がどんな思いをするのかわかっていないのなら意味がないと思います。知らず知らずのうちに差別をしてしまっているということもあるかもしれません。それらを防ぐために、まずは差別に対する理解を深めていくべきだと思います。



2つ目に、身近な人と差別について考え、話してみるということです。自分の考えを伝えあうことで共感する部分があれば、新しい発見があるかもしれません。みんなで考えを出し合い、深めることでみんなが差別を自分自身のこととして考えることができ、差別をなくしたいという共通の思いに変われると思うからです。差別について話し合うこと、語り合うことで一人ひとりの意識が変わり、そして社会全体が「差別をなくしたい」という思いになると信じています。

ここまで差別について話してきましたが、私が願っているのは、この世界中から差別がなくなり、誰もが幸せだと思える世界にすることです。もう誰も差別で苦しんでほしくありません。今すぐ実現するのは難しいと思います。しかし、少しずつ、私たちの身近なところから差別に対する意識や不平等な現状を変えていくことが大切です。早く差別で苦しむ人を助けましょう。もう差別に苦しむ人をつくらぬと約束しましょう。差別のない社会を目指して、差別的な意識を平等な意識へと変え、一人ひとりを認め理解し合う関係をつくっていきましょう。

さあ、今から一緒に始めましょう。差別を理解し、差別について語ることを。～



児玉さんの、差別に対する考え、怒りがストレートに表現された、すばらしい文章です。中学3年生にもなると、これほどのことを思い、これほどの文章が書けることに感動しました。

若者と高齢者、ワクチンを打った人と打たない人、自粛に従う人と従わない人、マスクをつける人につけない人、大都市と地方、先進国と発展途上国、コロナ禍の今、身の回りから世界中の至る所まで分断、分断、分断です。そしてすべての分断の「主犯」は人間の持つ差別心であると私は思います。

差別心とは深く、じっくり考える事を拒絶し、ただただ直感的に、感覚的に判断し、行動しようとする心の在り方だと思います。それは理性的な態度ではありません。

人は理性的な存在であるはずですが。理性的であるためには、やさしい人でなければなりません。やさしい人になるためには、他者の視線から自分を見つめなおすことのできる賢さが必要です。

コロナ対応の日々がまだまだ続きます。せめて鹿南中だけは分断のない、差別をしない、やさしさ溢れる学校にしたいものです。

